

城東区民生委員児童委員協議会 川井邦彦 会長にお聞きしました

聞き手(広報担当) 佐野正博



城東区中浜地区に白山神社があります。その創建は室町時代にまで遡ることとなります。大阪府の天然記念物に指定される貴重なイチョウの木があり、大坂冬の陣の際に徳川方の物見(偵察)に使われた逸話が残っています。その歴史ある白山神社の宮司でもある川井邦彦さんは主任児童委員を経て、現在、城東区の民生委員児童委員協議会の会長をされています。

世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、民生委員・児童委員活動は、大きな影響を受けています。毎年開催してきた区全体の総会も2年連続中止となり、地区委員会の開催も限られています。また、地域子育てサロン活動も長期間休止を余儀なくされて、親子と地域の関係性が希薄となり、孤立化が懸念されています。今日は、『今だからこそ、委員として何を成すべきか！』について、組織の在り方、委員の心構え、今後の展望等を、城東区民生委員児童委員協議会会長に伺いました。

佐野「私たちが、これまで経験したことのない生活を送るようになって一年半以上、悶々とした日々を送っている委員も多いと思いますが、今、私たちに必要な組織力、委員の心構えとは何でしょうか？」

会長「誰もが予想していなかった時代を迎えて、委員個々の経験の有無や大小に寄らず、活動の線引きが難しくなっています。城東区では、区民児協としての意見を民主的に集約して、活動方法を協議しながら、各委員が安心・安全な活動が出来るように、オール城東という組織力でバックアップに努めてきました。」

佐野「民児協は各区にありますから、他区でも同様の取り組みをしていると思いますが、城東区の特徴は何でしょうか？」

会長「特色と言えるかどうか判りませんが、理事会、評議員会の他に、総務部会、地域福祉推進部会、児童委員活動推進部会があり、その中に、人権教育、広報・研修、緊急援護資金、高齢者・障がい者、